

小児科臨床研修プログラム（1年次選択必修）

1. プログラムの目的と特徴G I O

将来の専門性にかかわらず医師として小児の疾病・障害の早期発見を行なえるよう、プライマリケアに必要な基本的な診療能力（態度・技能・知識）を身につける。

2. 研修施設 医療法人社団誠馨会 千葉メディカルセンター
研修指導責任者・指導医 鈴木 裕子

3. プログラム管理運営体制

プログラム委員会は圭春会小張総合病院小児科医長及び医員から成り、原則として3ヶ月に1回の会合を行い、本研修プログラムに関連する事項につき協議する。

4. 定員

3ヶ月を1 term とし、1 term に1人まで

5. 教育課程

5-1 研修期間と研修医予定

- ①原則的に、卒後研修2年目の研修医を対象とし、期間は3ヶ月とする。
- ②研修期間中、研修医は原則として指導医と行動を共にし、病棟患者の診察、処置などを指導医の監督下に行なう。
- ③研修医は指導医のもとで入院患者を3-5名程度受け持つ。受け持つ疾患は喘息、肺炎、けいれん性疾患、脱水など一般小児内科疾患とする。

5-2 到達目標

5-2-1 行動目標SBO

小児の健康上の問題点を全人的かつ家族・地域社会の一員として把握し、プライマリ医療を行なうと同時に、小児専門医の診療が必要な患者・病態を適切に判断できる能力を身につける。

5-2-2 経験目標SBO+LS

5-2-2-A 経験すべき診療法・検査・手技

（一般徴候）

患児や父母の用語の差異、面接技法、血液ガス分析、血液性化学検査、血液像、画像診断（X線、CT、エコー、MRI）

（手技）

採血（末梢静脈・かかと・動脈）、末梢静脈点滴、

（水・電解質）

末梢静脈輸液（脱水時の急速輸液、維持輸液）、経口補液

(消化器)

経管栄養、食事療法、直腸指診、腹部X線、腹部超音波検査

(循環器)

心雑音聴診、血圧測定、肝腫大触知、心電図、心エコー

(血液・腫瘍)

出血時間、凝固時間、Rumpel-Leede

(腎泌尿生殖器)

一般検尿、尿沈渣、超音波検査、陰嚢透光試験

(神経筋疾患)

熱性けいれん

(救急)

導尿、気管支拡張剤吸入療法、酸素吸入、胃洗浄

5-2-2-B 経験すべき症状・病態・疾患

(一般徴候)

意識障害、易刺激性、けいれん、チアノーゼ、筋緊張低下、発達遅滞
頭痛、胸痛、腹痛（急性、反復性）腰背部痛、四肢痛、関節痛
食思不振、頸部リンパ節腫脹、黄疸、肥満、低身長、浮腫、発疹・湿疹、
母斑、臍ヘルニア、鼠経ヘルニア、肝腫大、嘔声、陥没呼吸、多呼吸、
下痢、血便、便秘、心雑音

(水・電解質)

脱水、電解質異常、酸塩基平衡障害

(新生児)

新生児の蘇生（軽症仮死のみ）、驚口瘡、おむつ皮膚炎、カンジダ皮膚炎
染色体異常（Down 症候群など）

(アレルギー)

気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、蕁麻疹

(感染症)

麻疹、水痘、突発性発疹、風疹、流行性耳下腺炎、伝染性紅斑、手足口病、
インフルエンザ、ヘルパンギーナ、ロタウイルス、RSウイルス
マイコプラズマ感染など

(呼吸器)

気管支喘息、肺炎、気管支炎、細気管支炎

(消化器)

乳児下痢症、急性虫垂炎、急性胃腸炎、便秘

(循環器)

チアノーゼ、心不全、無酸素発作、川崎病、不整脈

(血液・腫瘍)

鉄欠乏性貧血

(腎泌尿生殖器)

急性尿路感染症、亀頭包皮炎、陰嚢水腫・精索水腫、停留睪丸

(神経・筋疾患)

熱性けいれん、てんかん

(救急)

乳幼児・学童の発熱・腹痛・下気道疾患、溺水、熱性けいれん、喘息発作、脱水、誤飲・誤嚥

5-2-2-C 特定医療現場の経験

小児の来院時心肺停止症例の蘇生

閉胸式心マッサージ、骨髄輸液

5-2-3 評価基準

自主性とマナーが特に重んじられる。ポイントは、

- 1) 自ら経験し、十分会得して効果的に知識・診察手技・検査を活用できるか
- 2) 自身で治療すべき疾病と指導医の助言を求めるべき病態の判断が的確か
- 3) 患者・家族・コメディカルを含む同僚への態度が妥当であるか

5-3 勤務時間

研修医は原則的に午前9時～午後7時（面会終了時刻）とするが、受け持ちの患者の診療上必要があれば、この時刻に制約されない。必要により重症当直を行なう。

5-4 教育行事

(1) オリエンテーション

研修開始初日に指導医により、研修中の心構え、週間スケジュール、スタッフの紹介、院内設備の案内などのオリエンテーションが行なわれる。また期間中に研修医心得につき指導を受ける。

(2) 週間スケジュール

| 曜日 | 午前 | 午後 |
|----|----|---------------------------------------|
| 月 | 外来 | 病棟 / 産婦人科合同カンファレンス |
| 火 | 病棟 | 乳児健診 |
| 水 | 病棟 | 特殊外来（1st,循環器 2nd,神経 3rd,アレルギー 4th,神経） |
| 木 | 外来 | 病棟 / 腎外来 / 症例カンファレンス、抄読会 |
| 金 | 病棟 | 乳児健診 |
| 土 | 外来 | |

5-5 指導体制

研修医1名に対し指導医1名がペアとして（状況により他の医員1名が加わり3名1チームで）患者を受け持つ。通常数名～10名程度の受け持ちとなり、診療を通して指導医からベッドサイド指導を受ける。入院患者は必要に応じ専門分野診療医とのカンファレンスで指導を受ける、もしくは直接の診療援助を受ける。

乳幼児検診を通して指導医から直接保健指導の手ほどきを受ける。

6. 研修医個別評価

本プログラムの到達目標の各項目につき、達成の有無を自己評価する。

自己評価を参考にしつつ勤務状況などを考慮のうえ、指導医の総合評価を受ける。

7. プログラム終了認定

プログラム委員会は研修医の自己評価表および研修医評価チェックリストを点検し、プログラム終了を確認する。修了者には圭春会 小張総合病院 小児科医長の終了印を捺印する。

添付資料：小児科研修医チェックリスト

小児科研修医のチェックリスト…3ヶ月間の研修医終了までに、次の事が期待される

評価記載 A：到達目標に達した
 B：目標に近い
 C：目標に遠い

| | 自己評価 | | | 指導医評価 | | |
|--|------|---|---|-------|---|---|
| 1) 小児科及び院内のルールを守って行動できる。 | A | B | C | A | B | C |
| 2) 行事や約束の時間を守ることができる。 | A | B | C | A | B | C |
| 3) 勤務時間、居所が明らかである。 | A | B | C | A | B | C |
| 4) 年齢・病状に応ずる病歴をとることができる。 | A | B | C | A | B | C |
| 5) 正しい診療手技で、系統的診察を行なうことができる。 | A | B | C | A | B | C |
| 6) 正しい治療手技で、治療を行なうことができる。 | A | B | C | A | B | C |
| 7) 所定の検査手技で検査を行い、検査成績を評価できる。 | A | B | C | A | B | C |
| 8) POS方式で診療録を的確に書ける。 | A | B | C | A | B | C |
| 9) 診療録の記載は、小児科の内規に合っている。 | A | B | C | A | B | C |
| 10) 退院記事の記載が適当である。 | A | B | C | A | B | C |
| 11) 紹介医に遅れずに返事を出している。 | A | B | C | A | B | C |
| 12) 患者退院1週間以内に退院病歴を提出している。 | A | B | C | A | B | C |
| 13) 英語の病名、薬名のスペルを間違わない。 | A | B | C | A | B | C |
| 14) 薬用量を間違わない。 | A | B | C | A | B | C |
| 15) カンファランスにおける説明や発言が的確である。 要点を把握し、その場の状況に合わせて適当に伸縮して述べられる。 | A | B | C | A | B | C |
| 16) 回診時に患者の病状説明が的確である。 | A | B | C | A | B | C |
| 17) 患者受け持ちにあっては、必ずネルソンの小児科書以上の本を読んでいる。 | A | B | C | A | B | C |
| 18) 必要とする文献を捜し出し、利用できる。 | A | B | C | A | B | C |
| 19) 自発的に勉強している。 | A | B | C | A | B | C |
| 20) 勉強するよう言われことはきちんとやっている。 | A | B | C | A | B | C |
| 21) はじめての病気や手技に際しては、自分で本を読みかつ指導医等に相談している。 | A | B | C | A | B | C |
| 22) 患者診療において、自分でよく考えたとともにコンサルテーションをよく行なう。 | A | B | C | A | B | C |
| 23) 先輩、同輩、看護師と協調して診療が行える。 | A | B | C | A | B | C |
| 24) 看護師に信用がある。 | A | B | C | A | B | C |
| 25) 患者及び家族に信頼されている。 | A | B | C | A | B | C |
| 26) 患者及び家族に病状の説明を的確にかつ親切に行なうことができる。 | A | B | C | A | B | C |
| 27) 患者及び家族に human empathy がある。 | A | B | C | A | B | C |

28) 態度、挙措が研修医として適当である。
服装・髪型は清潔感を与えるものである。

A B C A B C

指導医サイン _____